

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	法人の理念「ともに歩む」を基に、施設理念「共に支え、支えられる関係」を挙げ、職員がいつでも確認できるところに掲示し、日々努力している。	地域密着型サービスの事業所として、グループホームの理念、ご利用者様、ご家族様を支え、支えられる、双方向の関係づくりを実践に繋げる様に、玄関・事務所・ホールキッチンに掲示し、職員が実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	現在はコロナウイルス感染が拡大しており、地域の方、ご家族様とも面会制限があり、散歩時でのあいさつ程度しかできなかった。	事業所と地域のお付き合いは、近所のお散歩時に農家の方とご挨拶し、葡萄の差し入れを戴きました。後は法人の病院前、老健、ケアハウスなど、散歩中にあいさつを交わすことが出来ました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	面会制限のため交流はできなかったが、施設便りを作成し、コロナ対策や季節に合わせた病気対策、体操などを配布させていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	面会制限のため施設での会議ができないため、報告書類を作成し、配布させていただいている。会議ができるたくさんの参考意見を頂けるのに、とても残念。会議の方法を思案中。	コロナ禍で施設内の推進会議は開催できず、書面開催に留まっております。まほろばの主な行事など、まごころニュースとして写真を添えて会議録を郵送し、電話で民生委員さんにご意見を伺う事もあります。	コロナ禍で書面開催に成らざるを得ないのですが、会議録は推進員さんを訪問しお届けして、ご意見を頂戴するなど工夫を期待します。また、誰もが閲覧できるように、玄関などに公開で掲示する様にお願い致します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	今年度も、介護相談員の訪問ができず。塩尻市とは、電話やお便りにて連携を図っている。	市の担当者を、管理者が月に数回は訪問し、事業所のお便りや実情、介護サービスの取り組みなどの遣り取りをしております。他に、電話でも相談しております。介護相談員の訪問の再開が待たれます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関に関しては、施設前が国道で交通量が多い為、入居時説明の時ご家族様からは同意を得て施錠しているが、そのほかについては、身体拘束を行わなくてもケアができるよう取り組んでいる。	ご利用者様の安全を確保するため、玄関の施錠はご家族の理解を得ておられます。身体拘束防止のオンライン研修を受け、管理者が教育指導して取り組んでいます。記録で確認しました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	認知症の理解を深めることにより、利用者様を理解し虐待につながらないように、職員等で話し合い、職員の精神的負担緩和を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修等で理解を深められるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時ご家族と読み合わせを行い、項目ごと質問を受け付け、同意していただいたうえで契約している。随時質問も受け付けている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を玄関に設置したり、電話連絡の際ご意見等お聞きし、気軽に意見や要望が反映できるようにしている。	写真をふんだんに使った、まごころニュースをお届けして、日常の様子をお知らせしています。意見箱の玄関への設置、お電話の際に意見・要望をお聞きする様にしています。ご家族からは、家に居れば出来ないこともして頂けるとの声をお聞きしました。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	気軽に意見や提案を聴けるようにしている。意見が反映できるようにもしている。	コロナ禍のため、職員の家族の罹患や職員の体調次第で、出勤体制の変更と調整が厳しくなります。新しい職員の確保を継続的に続け、ゆとりを持ち、働きやすく、意見を反映できる環境を目指しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	働きやすい環境づくりを目指し、法人等にも働きかけ、職員がいつでも笑顔で働けるよう心掛けています。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	コロナ禍のため検証があまりできていないが、オンライン等での研修参加が出来る機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナ禍のため積極的に交流はできないが、情報交換等は、少しではあるが行っている。			

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご本人の思い、生活史、環境等をご家族・友人親戚の方からお聞きし、ご本人が不安にならないよう、寄り添ってより理解を深めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	いつでも相談していただけるよう日頃から務めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご家族様の話に耳を傾け、できる限り必要としている支援に繋がるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	常に職員は、利用者様を「人生の大先輩である」とし、尊敬、受容、共感できる関係づくりに励んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	施設理念であるため、より良い関係づくりができるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの関係が壊れない環境、サービスに努めている。ご家族様からのお便りに返事を書いていただき手紙を送ったり、電話での交流など行っている。	年賀状・暑中見舞いなどや、七夕の短冊の願いなど、利用者様に思いを込めて書いて頂き郵送しています。コロナ禍で、以前にご家族と出来ていたことも断念せざるを得ないが、コロナの今後も見据えて、ご家族との関係づくりを改めて再構築出来る様に願っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	認知症のレベルにより、他の方とコミュニケーションが取れない方もおり、職員が間に入り孤立しないようにしたり、仲の良い方と同席にするなどの配慮を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	年賀状や暑中見舞い、お便り等をお送りし、お電話をしたり、お手紙をお出ししたりし気軽に相談等行えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々のコミュニケーションを図りながら、利用者様の思いが把握できるように努め、カンファレンスやミーティングを開き、ケアプランの見直しを行ったりして「その人らしく」を大切に考えている。	月1～2回のカンファレンス記録、ケアプラン、随時のミーティングはノートで職員が情報共有し、個々の職員が関わった情報を全員が共有できるように取り組んでいます。利用者様の、言葉に表れない想いの汲み取りの工夫を目指しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者様とのコミュニケーション、ご家族様からの情報提供、親戚、ご友人の方からの情報提供により把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介助を行うことで、個々のできることや理解できること、どうしたらできるのか？を日常生活の中から発見し、気づきを話し合い把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	カンファレンスを開く際、多職種にも参加していただき、ご家族様、利用者様からの意見・要望をお聞きし、介護計画ができるよう取り組んでいる。	20年来続く認知・身体両面の『脳トレ』を実施。法人の病院から看護師・栄養士・TT、ケアマネなど多職種でカンファレンスを開きます。ご家族・本人から意見要望をお聞きし、介護計画を作成するに取り組んでいます。記録を拝見しました。	介護計画を拝見し、具体的な見える形の目標を期待します。個々の利用者様に合わせた、実践しやすく効果が見えやすい、短期目標などを明確化すると、担当職員がケアやサポートを実践し易いので期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個人記録、業務日誌、カンファレンスノートや、朝の申し送り等職員が情報を共有でき、実践、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	その時々状況に合わせて、サービスの内容を検討できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の方の力をお借りしながら、楽しく安心して生活できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事前説明の折確認している。法人が病院なので、ご家族様からの希望で、法人をかかりつけ医とされる方がほとんどで医療連携ができ支援している。	医療法人が経営するグループホームであり、法人を、かかりつけ医にされる方がほとんどです。病院・老健・訪看・ケアハウスなど、医療連携が出来ております。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週1回訪問看護師が来所した折、相談や意見交換等行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人が病院なので、担当医、看護師、相談員とも情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	見取りにおける指針を作成し、入居時説明から終末期における希望をお聞きし、法人、訪問看護等連携を取り、利用者様、ご家族様の意向を踏まえ、最後まで看取る体制ができています。	入居時に終末期におけるご希望をお聞きし、安心して看取りが出来る体制を同意戴く様にしてあります。法人の病院・訪看連携の元、最後まで施設での温かな看取り支援体制を取っています。亡くなる直前まで、入浴可能な支援もしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応を、法人、看護師から指示を受け、職員が対応できる体制ができています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の防災訓練や、施設独自のミニ訓練、法人の防災訓練へ参加している。(現在コロナ禍のため参加できず)緊急時、地域の方の協力を得られる体制ができています。訓練には、コロナ対策も織り込んでいます。	コロナ禍のため、マスクや接近しすぎない様に感染予防対策をして、消防署や区長、消防団や市の立ち合いで消火栓の場所、防災器具の使い方、口頭や連絡網を使う訓練など、防災委員会独自のミニ訓練を実施しています。ヘルメットや防寒用品、食料やオムツなどの備蓄も常に点検しています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	新規採用職員に対し法人が接遇研修を行い、人格の尊重、誇り、プライバシーを損ねない指導をしている。また地域の方言等も使い理解することにつなげている。他職員も常に尊厳、誇りプライバシーを損ねない対応を心掛けている。	法人での接遇研修は、態度や表情、言葉使い、お辞儀や電話対応など、一人ひとりの人格と、プライバシーの尊重、誇りを大切にしています。認知症が進んでのトイレの対応は、試行錯誤しながら、尊厳や誇り、プライバシーを守れるように、カンファレンスを重ねて、言葉掛けも改善しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の訴えを聴いたり、様子を見たり、つぶやきを聞き逃さないようにして、思いや願いをできるだけ叶えるようにしているが、その思いを否定されるご家族もおり、話し合いを行いながら、できるだけかなえられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	常に利用者様時間で行動するようにしている。グループホームの特長でもある個別ケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者様個々の馴染みのおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	通常は病院からの食事提供だが、行事、誕生日会等は、季節に合わせた食材や風習、利用者様からのリクエスト等手作りの料理を提供し、職員も一緒に話をしながら、楽しく食事ができるよう心掛けている。時々お手伝いもお願いしている。	法人が病院なので、栄養バランスの良い食事や、状態にあった食事が提供されています。行事やお誕生会などは季節感のある祝い膳が用意され、お祝いをして、おやつも工夫されています。豚汁などは、皮むきや野菜を切ったり、後片付けのお盆ふきなど、お手伝いも時に応じてお願いしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	通常は病院からの食事提供なので、カロリー、塩分などの管理はできている。多職種栄養士、STとも連携が取れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科往診が2週間に1回あるので、無料で歯科検診をしていただき、その結果をご家族に連絡したり、口腔ケアの指導もして頂いて就床前の口腔ケアの徹底に生かしている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	利用者様個々の様子を見ながら、トイレ誘導のタイミングを察知し支援している。トイレでの自立排泄ができるよう体操を行ったり、栄養士と相談したり、訪問看護師等からアドバイスを頂いたりして自立に向け努力している。	尊厳を保てる自立歩行や、身体を動かす運動を取り入れて、排便の際のいきみを促進できる様に多職種と連携し支援しています。排泄支援は心身の状態に影響するので、ヨーグルトや食物繊維など整腸を促しています。記録で確認致しました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事や水分量に配慮し、楽しく運動ができるようにしたり、担当医とも相談して、便秘改善・予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	曜日や時間帯は、ほぼ決まっているが、利用者様の様子等に合わせ、楽しく入浴ができるよう入浴剤を使用したり、季節の行事などを取り入れ、音楽をかけリラックスしていただけるような配慮を行っている。個々の身体状況により、保湿剤等の使用も行っている。	入浴前にヒーターや空調を整え、楽しく入浴できる様にしています。季節ごとの柚子や入浴剤、音楽を掛けるなど工夫しています。拒否する方へも、上手くいった時の情報を皆で共有し、入ってしまう迄の言葉掛けを工夫し、入浴して気持ち良かったと感想を戴いています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体操や散歩、施設内の雰囲気づくり、シーツ交換、昼夜逆転にならないような支援、ラベンダーを施設内に飾ったりして気持ちよく安心して眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員が内服薬に関して理解し、薬の処方の変更になった時の体調変化に注意し、見落とさないように努めている。また職員同士情報交換を行っている。配薬ミスがないよう何度も確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	朝の脳トレに「本日の楽しみは」という項目があり、書いていただいたり、お聞きしその内容が実行できるよう努めている。利用者様の出来る事を見極め、食事の片付け、お盆拭き、洗濯物たたみなどをお願いしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍のため、外出支援が難しい。春は、お花見ドライブを楽しんだ。秋は、紅葉狩りに行きたいと思っている。もっと楽しんで外出ができることを考えている。散歩を楽しみ、趣味である写真撮影をしたり、お花を摘んだりしている。	コロナ禍のため外出支援は難しい中、春は信州スカイパークで花見を楽しみました。秋は、職員家族のコロナ感染があり、紅葉狩りは出来なかつたです。法人内のお散歩で写真を撮り、コーナーを設けて飾ったり花摘みをしたりしています。	今後、コロナ禍が長引くことも踏まえて、出来ることを増やして頂ける様に期待します。ご家族のPCR検査実施後、日掛けのボランティア保険対応をして、外出支援をお願いするなど工夫を期待いたします。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)		外部評価(評価機関記入)	
			実践状況		実践状況	
					次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は、ご家族様と施設で管理している。外出の折、ご自分で支払いをしていただくこともある。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	利用者様の希望があれば、いつでもお電話していただけるように、ご家族様からの了解を得ている。手紙も書いていただき投函できるようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じていただけるよう、ホールや廊下には季節のお花を飾ったり、暖簾をかけたりにしている。ホールには、月ごとに作成した作品を飾ったり音楽をかけたりして、落ち着いた空間を作るようにしている。		窓からカーテン越しに、穏やかな陽射しと優しい音楽が流れる共用空間は、生花や皆さんが手作りした作品が飾られています。季節感を感じる柿の実が彩っていました。空調と換気は、いつも一定の温度を保つようにしています。窪みがあるテーブルなので、車椅子でも室内にゆとりが感じられます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	自席のほかに、ソファーやお好きな場所でテレビ鑑賞ができるようにしている。また席順を考え、落ち着ける居場所づくりも心がけている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	個々により室内の様子が違うが、馴染みの家具やテレビ等を配置していただいたり、作品を飾ったりして居心地の良い空間になるよう努めている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々の出来る事、出来ない事を職員が把握し、情報交換を密にしながら出来ない部分への支援の仕方や安全面にも配慮し、出来るだけ自立した生活が送れるよう支援している。「できることを取り上げない努力」と「待つてあげる努力」を心掛けている。			